

大和高田市教育環境あり方検討委員会が開催されました

令和7年7月17日(木)に第4回教育環境あり方検討委員会が開催されました。

第4回では小学校・中学校、幼稚園の適正規模の実現に向けた再編の考え方、地域と連携した学校園づくり等について説明を行い、意見交換を行いました。



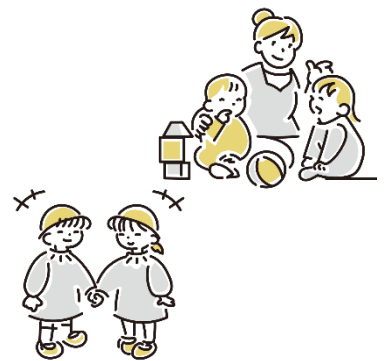
1. 話し合った内容や意見

○議事

※以下、委員の皆様からご意見をいただくための資料として作成した事務局案で、決定したものではありません。

<幼稚園の規模適正化に向けた対策と実施時期の考え方>

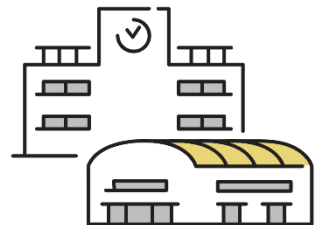
幼稚園の再編・統合については、就学前保育・教育ニーズの多様化への対応や地域の子育て機能の向上、老朽施設の建替え促進等の観点から、市立幼稚園単独で検討するのではなく、地域間での立地のバランスを考慮し、令和7～8年度にかけて、市立保育所、市立こども園とあわせた一体的な検討を進めていくこととします。



<小学校・中学校の適正化に向けた再編について>

小学校・中学校の再編の取組の基本的な考え方（概要）※

- (ア) 子ども達にとってより良い教育環境の実現
- (イ) 中長期的な視点での検討
- (ウ) 中学校区をコミュニティの基本単位とした検討
- (エ) 地域とともにある学校づくりの推進



小学校・中学校の適正規模の実現に向けた主な対策（概要）※

- (ア) 隣接する学校同士の統合
- (イ) 小学校・中学校が連携した9年制の義務教育の推進
- (ウ) その他（通学区域の弾力化や通学区域の見直し等）

実施時期の考え方※

児童・生徒数の減少により 10年以内に適正規模校の範囲を下回り、小規模校となることが見込まれる段階で、隣接する学校との統合・再編の取組に着手します。 統合・再編の取組にあたっては、児童・生徒数の動向に注視しつつ、学校や保護者、地域住民との協議を十分に図りながら進めるものとします。

なお、既に小規模校が生じている場合は、適正規模の実現に向け早急な対策が求められます。小規模校の課題に可能な限り対応し、教育環境の維持に努めるため、統合・再編の実施時期の前倒しや通学区域の弾力化・見直しなどについて検討します。

小学校・中学校の将来の目標校数（案）※

※以下、委員の皆様からご意見をいただくための資料として作成した事務局案で、決定したものではありません。

本市の適正規模・適正配置（案）、再編の基本的な考え方に基づき、現在の中学校区単位を維持しながら、令和 14 年度（2032 年度）から令和 22 年度（2040 年度）までを対象期間として将来の目標校数を小学校3校、中学校3校とします。

また、再配置を実施するまで、小規模校が解消されない学校に対しては、小規模校の課題に可能な限り対応し、教育環境の維持に努めるものとします。

対象校及び実施時期は、保護者および地域の十分な理解が得られた学校から可能な限り早い時期に進めることとします。

<地域と連携した学校園づくりについて（大和高田市の取組）>

地域学校協働活動

大和高田市では、奈良県学校・地域パートナーシップ事業を活用し、市立小・中・高等学校に地域学校協働本部を設置しています。学校・地域パートナーシップ事業では、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進して、学校を核とした地域コミュニティを構築し、子どもたちの学びや地域教育力の向上を目指しています。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

コミュニティ・スクールとは学校運営協議会を設置した学校のことです。学校運営協議会は対象学校の校長、教職員、保護者、地域住民等で構成され、校長が示す教育目標や経営方針の承認をするなど、目的やビジョンを共有し、学校と地域が連携・協働して子どもたちを育てる仕組みです。令和6年度は市内すべての小中高の公立学校に設置しました。

<主な意見>

小学校・中学校の適正化に向けた主な対策と実施時期、小学校・中学校の将来の目標校数については、概ね承認をいただきました。

他、議事について、各委員から以下のような意見や質問がありました。（一部抜粋）

●幼稚園の再編について

- ・幼稚園とこども園とでは内容が違うので、幼稚園を求めている保護者は幼稚園を残してほしいという意見がある。
- ・幼稚園は、子どもの主体的な遊びを大事にして学習につなげていく。小学校につながるための学びの基礎を幼稚園教育の中で大事にしている。
- ・幼児教育を残すために3・4・5歳を一緒に教育して小学校に上げていく幼稚園型のこども園をつくっていくことも検討したい。

<主な意見> (続き)

●小学校・中学校の再編について

- ・保護者は、統合されて学校数が減るのは当然と考えている。その中でどの学校がなくなるのか、遠くなった場合にどう移動するのかといった質問や意見が多くある。
- ・小学校区のコミュニティもずっと続いているが、発想の転換で、大きく3つの中学校区を地域コミュニティとして考えて、そこを残していく。小中も1つになり、将来的には小中一貫や義務教育学校にも発展していくという方向性が大事だと思っている。
- ・片塩小学校に勤めていたことがある。西中ができたときの事情で分かれることになったが、新しく再編するのであれば一緒に同じ中学校に行ける方向がよい。
- ・3つの小学校として新しい学校をつくるのであれば、1つの出発点だという考えにどの地域の人にもなると思うが、財政的に考えたときに新しい学校ができるのかどうか。
- ・学校が減るとハード的にも人的にも費用が浮いてくる。建替えたとしてそれを補えるだけのものがあるのか。中学校も古いからそのうち建替えなければならない。小学校も中学校も人数が変わらないのであれば、9年間使える建物ができたとしたら、その方が理にかなってくる。それだけの予算があるか知らないが、それも考えられる。

●地域と連携した学校園づくりについて

- ・統廃合したときに1つ大きな課題となるのが放課後児童会だと思う。統廃合でなくなった学校で積極的に、放課後児童会も含め放課後の居場所づくりができるか。施設の管理の問題もあるが結局は人で、市として人を配置できるかどうか。
- ・子どもの遊び場が減っていると感じている。公園はあっても遊具がない。そういう中でゲームになるのは理解できる。環境がそうさせてしまっている。
- ・学校に関わるのは学校周辺のお年寄りに限られて、遠くの人に関わらないと思うので、空いた学校をその人たちが使える場所にする。あるいは高齢者と子どもたちが交流できる場所にしていく。

※詳細については別添の「第4回大和高田市教育環境あり方検討委員会議事概要」をご確認ください。

2. 今後のスケジュール

第5回は第4回までにいただいた意見を取りまとめた報告書案について意見交換を行います。

